

今年度の学校経営ビジョンについて① 「さくらっ子」より1部引用

校長室から

「教育目標、目指す児童像、重点・努力事項」は、昨年度、生活集会等の話の中で、1年をかけて子どもたちの中での理解を深めてきました。そのため、継続性を重視し、小幅な変更にとどめました。



令和6年度の学校経営ビジョンについて① ※赤字が今年度の変更点となります。

教育目標 心豊かで自立的精神に満ち、限りない創造を求める「輝く子ども」の育成

目指す児童像 「輝くこころ、輝くひとみ、輝くからだ」をもつ子ども

重点・努力事項 (輝くこころ) 徳：自分や相手のよさを認め合う子どもの育成
(輝くひとみ) 知：自ら考えて学びに向かう子どもの育成
(輝くからだ) 体：運動に親しみ健康で元気な子どもの育成

小学生が読書をする、集中力が養われて、脳にも良い影響を与えます。本には小学生がまだ知らない表現が出てきますが、意味がわからなくても前後関係から推測できるようになります。小学生から多くの単語や漢字に触れることで、読解力が身に付き、語彙力も蓄積されるのが最大のメリットです。

「活字離れ」を防ぐために、本の読み聞かせの機会を増やしたり、友達や保護者の方からおすすめの本を紹介したり、日常の会話から語彙力を鍛えていったりなど、様々な対策が必要となります。学校と家庭で、協調しながらの取り組みが大切となります。

「輝くこころ」を育てます

学力、体力もバランスよく伸ばしていきますが、まずは、すべてのベースとなる「こころ」を育てることに、今年度も力を入れていきます。



昨年度、子ども達に「よさ」を見つけることの大切さについて話を続けてきました。それが、一人ひとりの「強み」となり、自己肯定感、自己有用感を高めることにつながります。

自己肯定感、短時間で急激に高まりません。様々な取り組みを通して、時間をかけて少しずつ、子どもたちに自信をもたせ、高めていきます。

令和6年度版

1 心の教育を充実させます

- ・ 「よさや強み」を大切に温かさやけじめのある指導
- ・ 自己肯定感、自己有用感の育成
- ・ いじめや不登校が起きない学級集団づくり
- ・ 学級活動、道徳科での話合いの過程の重視
- ・ 読書の楽しさを味わわせる活動の充実

2 豊かな体験活動を充実させます

- ・ 滝ザクラと地域、特色ある校地等を生かした学習活動の推進
- ・ 児童のアイデアを生かした社会性を育む縦割り活動
- ・ 自然や芸術に触れる機会の充実
- ・ SDGs 17の目標やキャリア教育を意識した体験学習の整備

3 自主的活動を充実させます

- ・ 児童会、学校行事、ボランティア活動等での児童の意識改革

4 基本的生活習慣を身に付けさせます

- ・ 「気持ちよいあいさつ」の推進
- ・ ルールの意味を考え、自ら守ろうとする主体的な態度の育成
- ・ 家庭と連携した指導の充実

深化・発展

令和5年度版

1 豊かな体験活動を充実させます

- ・ 滝ザクラと地域を生かした学習活動
- ・ 社会性を育む縦割り活動
- ・ 自然や芸術に触れる機会の充実
- ・ SDGs 17の目標やキャリア教育を意識した体験学習の整備

2 基本的生活習慣を身に付けさせます

- ・ あいさつ運動の推進
- ・ ルール守ろうとする主体的な態度の育成
- ・ 家庭と連携した指導の充実

3 心の教育を充実させます

- ・ 温かさやけじめのある指導
- ・ 自己肯定感の育成
- ・ いじめや不登校の起きない学級集団づくり
- ・ 学級会・道徳科での話合いと読書活動の充実

4 自主的活動を充実させます

- ・ 児童会・学校行事・ボランティア活動等の充実

自己肯定感が高い児童は、
・ 自分の気持ちや考えをすなおに話せる
・ 考え方が前向き
・ 自分に自信がある
・ 自分のことが好き
・ ものごとに意欲的に取り組める
・ まわりの人を認めることができる
・ 友達やまわりの大人とうまくコミュニケーションがとれる
・ 失敗してもあきらめないなどの特徴があります。

生活集会の中で、「あいさつの天才になろう！」という作戦を子どもたちに説明し、実行中です。集会の中で、「この言葉を知っている人」と質問をしたところ、何人かの児童が手を挙げました。本で読んだり、何かで見たりしたことがあるとのことでした。早速、それを意識して生活している児童が見られるようになってきました。中郷学校に、気持ちよいあいさつを、どんどん広げていきたいと思っています。

今年もめざすは『輝く子ども』
作戦3
「あいさつの天才になろう！」
あいさつには、その人の人生をかえる
ふしぎな力があひます！
すてきなあいさつをして、あいさつをした人をさわやかな気持ちにしちやおう！

「やらされている感」「決められているからやっている感」「何となくやっつる感」からの脱却をテーマに、児童会活動、学校行事等での活動を見直していきます。これまでの活動を大切にしながらも、子どもたちのこれまでの生活経験を生かして、様々な提案をすることへチャレンジさせていきます。現在は、6年生からの提案書を行っています。どのような提案があるかとても楽しみにしています。出された提案を教職員で協議し、必要に応じてその場に子どもたちも参加できたらと考えています。

発達段階にあわせた方法で、ルールの意義を考え、合意のもとにルールを守ったり、さらにはそれを改善したりすることを大切としていきます。特に、『家族でチャレンジカード』の「メディアコントロール」について、なぜコントロールする力が必要なのかについての理解を深めていきます。そして、「自ら守らなければ」という主体的な態度を育てます。学校としても、様々な情報を精査して、保護者の皆様にもお伝えして参ります。ご協力をよろしくお願いたします。

昨年度から取り組み始めていましたが、6年生を中心とした子どもたちのアイデアを、縦割り班活動等に生かしていきます。その中で、まずは最高学年である6年生の社会性を育て、その姿を見ている5年生以下の子どもたちへよい影響を与えられるようにしていきます。異年齢の交流を活性化させ、「小規模校だからできること」の大きな柱にしていきます。